

事業所の概要表

(令和元年8月1日現在)

事業所名	ちかみシーサイド					
法人名	NPO法人 ケア・サポート					
所在地	今治市近見町1丁目7-50					
電話番号	(0898)36-1131					
FAX番号	(0898)36-1132					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成19年 3月 28日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1.2) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能居宅介護)					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	16 名 (男性 8 人 女性 8 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	1 名	要介護2	2 名
	要介護3	6 名	要介護4	5 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	2 人	1~3年未満	4 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	5 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 5 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	医療法人補天会光生病院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 0 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,600 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
食材料費	1日当たり	1,300 円	朝食:	300 円	昼食:	500 円
	おやつ:	50 円	夕食:	500 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等)					
	<input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	310 円				
		円				
		円				
		円				

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 1 回) ※過去1年間					
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間					
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間				
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員	<input type="checkbox"/> 評価機関関係者		
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者	<input type="checkbox"/> 近隣の住民		
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者	<input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等		
	<input type="checkbox"/> その他 ()					

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年9月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890200078
事業所名	ちかみシーサイド
(ユニット名)	ほほえみ
記入者(管理者)	
氏名	施設長 永井 優子
自己評価作成日	令和元年8月1日

【事業所理念】※事業所記入 法人理念およびケア理念 ・私たちは、高齢の方や障害のある方、またそのご家族の様々なご相談に応じ適切なサービスの提供や紹介を行います。 ・私たちは、高齢の方や障害のある方、お一人お一人の意思を尊重し、明るく楽しく元気な生活が送れるようお手伝いいたします。 ・私たちは、その人らしい暮らしをありのままに受け入れ、高齢の方や障害のある方を大切にいたします。 ・私たちは、あらゆる機会を通じて地域の方々と交流を図り、地域と共に歩みます。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 目標：職員間で情報を共有し、共通理解をした上でケアに取り組む。 取り組み内容：普段の申し送りを充実させる。ミーティングを開催し、情報を共有する。・ケア記録を充実させる。 結果：申し送りノートやミーティングの機会を活用し、職員間の情報共有が出来ている。 目標：地域の方や消防団に働きかけ、協力体制を得る。 取り組み内容：民生委員、地域の消防団に働きかけて、訓練等に参加してもらった。 取組結果：地域の方や消防団の方に働きかけを行い、協力体制を得ているが、まだまだ不十分だと思う。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 施設長が小・中学校に Outreach、認知症サポーター養成講座を行っている。事業所で行う夏祭りの際には、婦人会の人たちが来て盆踊りを踊ってくれた。 墓参りに付き添うケースがある。必要に応じて受診の同行や夜間の緊急対応などを支援している。利用者の誕生日には、本人に好きなおやつを聞き、職員が手作りにしている。 ボジョレーヌーボーの解禁日には、飲める人にはワイン、飲めない人にはグレープジュースを用意し、チーズをおつまみに楽しむ機会をつくった。10月には運動会を行い、赤白組に別れてパン食い競争などを行った。
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用開始時には気を配り、ご本人やご家族の要望を良く聞き意向の把握に努めている。	○		△	利用者や家族から聞いている。意向の表出が難しいような利用者については、家族に聞いている。聞いた情報は、経過記録(介護記録)に記入することになっているが、情報量は少ない。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用開始から、言動・動作等で本人の視点で観察し把握しようと努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	担当者会議を行い、ご家族にも聞き取りしている。面会に来られた友人にも話を聞かせてもらっている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	整理して経過記録に残すようになっているが、出来ている時と出来ない時がある。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	思い込みや決めつけで判断しないよう、職員にはミーティング等で話し合い情報共有しながら本人の思いを見逃さないようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	面会に来られた友人・親戚等、本人をよく知る人から話を聞くことが出来ている。			△	個別高齢者調査表に、生活歴や住環境、生活習慣などを記入する欄はあるが、記入はほぼない。家族などから聞いた情報は、経過記録に記入することになっているが、情報量は少ない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	常に観察し、心身の状態や現状の能力の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	常に状態観察している為、本人がどのような場面で不安になったり、不安定になったりするかは把握出来ている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	要因がなにかについて、把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	利用者お一人おひとりの生活パターンを把握し、本人の生活パターンを把握できている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	ミーティングで情報共有し、利用者ご本人の視点で検討している。			△	サービス担当者会議には、利用者や家族、姉妹が参加しているが、さらに、利用者が何を求め必要としているのかを検討するためにも、本人についての情報収集に工夫してほしい。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	生活歴や暮らしの希望を良くお聞きし、生活リズムや体調の変化にも配慮し、必要な支援を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	職員で検討し、ご本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	反映された内容になっている。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	定期的に担当者会議を開催し、意見を反映させている。	△		○	サービス担当者会議時の本人、家族の要望を踏まえて、施設長と計画作成担当者が介護計画を作成している。さらに、家族アンケート結果をもとにして取り組みを工夫してほしい。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	ご家族から希望を聞き、日々の過ごし方に活かす事が出来ている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力体制は盛り込まれているが、地域の人たちとの協力体制は盛り込まれていないこともある。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画は職員全体が閲覧出来るようにしており、内容を把握、理解し共有している。			△	新たな計画を作成した際には、施設長が申し送り時に「新しくなりました」と伝えている。職員は、事務所に設置している計画書を確認することになっているが、全員が確認したかどうかはわからない。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実践出来ているかどうかの結果については、記録をして職員間で状況確認を行い支援につなげている。			△	3ヶ月に1回、施設長と管理者、利用者個々の担当職員が口頭でやり取りをしてモニタリング表(利用者家族の満足度、サービスの実施状況)に記入している。さらに、日々の支援につなげるような取り組みに工夫してほしい。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしの様子や支援した具体的な内容を個別に記録している。			×	経過記録に記入することになっているが、記入はほぼない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の気づきについては経過記録に残しているが、工夫・アイデアは記録出来ない時がある。			×	経過記録に記入することになっているが、記入はほぼない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的(6ヶ月に1回)に見直ししている。			◎	施設長が責任を持って期間を管理して、6ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回は状況確認し、職員間で話し合う場を持ち、状況の変化やご本人の要望を見逃さないようにしている。			○	月1回のミーティング時には、利用者全員の現状について確認しており、気になる利用者についてのみ話し合い、内容を記録している。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化があった場合は、カンファレンスを行い、見直しを行っている。			○	退院時、身体状態に変化があり、計画を見直した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	その都度、会議を開き検討している。また、その会議の内容も職員全体で共有している。			○	月に1回、ミーティングを行い、話し合いの結果をノートにまとめている。緊急案件がある場合は、その日の勤務職員が集まり、口頭で話し合いを行っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ミーティングの際には席次等に気を使い話しやすい座席づくりをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	勤務状況によるが、なるべく多くの職員が出席できるように配慮している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容は、記録化し職員が閲覧できるようにしている。閲覧したかどうかの確認も行っている。			◎	ミーティングノートを確認した職員は押印するしくみをつくっており、印が揃ったかどうかは、施設長が確認している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや会議内容を共有できるようにしているが時に伝達ミスもある。			◎	家族からの伝言や医療に関する事、業務に関する事等は、申し送りノートに記入して申し送っている。職員はノートを確認して押印するしくみをつくっている。内容によってはメモを追加したり、カレンダーに記入したりして共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日朝・夕申し送りをを行い、朝礼を行っている。	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	レクリエーションの希望やしたいことを聞き、それを行う努力は行っている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定する場は設けている。買い物の支援の際は欲しいものを自分で選んでもらったり、おやつ作りについては自分の好きな果物を選んでもらっている。			△	誕生日には、本人に好きなおやつを聞き、職員が手作りしているが、日々の暮らしの様々な場面という点からは機会が少ないように感じる。
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	納得しながら暮らせるよう、希望に添える支援が出来るよう努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援はできているが、時に職員側の都合を優先していることもある。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	職員一人一人が声掛けに工夫し、利用者が自分の思いを話しやすい雰囲気づくりをしている。			○	ボジョレーヌーボーの解禁日には、飲める人にはワイン、飲めない人にはグレープジュースを用意し、チーズをおつまみに楽しむ機会をつくった。10月には運動会を行い、赤白組に別れてパン食い競争などを行った。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や身体状況、反応等をよく観察し、いつもと違う変化を見逃さないように努め、利用者の意向に沿った暮らし方が出来るよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	接遇についても研修を行い、人権や尊厳についてもミーティングで話し合うようにしている。言葉かけや態度等についても常に意識して行動するよう努めている。	○	○	○	4月の事業所内研修時に、接遇について学んでいる。新人職員は、法人研修を受けて学んでいる。言葉かけや態度については、施設長が指導したり、職員同士で注意し合ったりしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者を敬い、人前では声掛けにも配慮し、さりげない声掛けをするよう努めている。羞恥心等には十分配慮し声掛けをしている。			○	大きい器のちゃんぽん麺を食べにくそうにする利用者には、お椀を用意して少しずつ分け、自分で持って食べられるようにしていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時や入浴時の不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助が行えている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りなどは利用者の承諾を得るようにし、プライバシーには十分配慮するよう努めている。			○	利用者に許可を得てから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティングなどで、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について話し合い理解し遵守している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者を常に人生の先輩として敬い、教えてもらうことも多く、助けをもらうこともある。互いに感謝し合う関係を築いている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が互いに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立しないように共有スペースでの席を配慮したり、職員が間に入り利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている。			○	自立度の高い利用者にも、他利用者の話し相手をお願いすることがある。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者のトラブルについては、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	これまで支えてくれたり、支えた人など、本人を取り巻く人間関係については把握している。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	地域の関係性やなじみの場所などについての把握については出来ている職員とできていない職員がいる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないうち支援している。	△	外出支援は出来ているが、知人友人に会いに行く支援は出来ていない。本人のなじみの場所に出向する際は、支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れて居心地よく過ごせるよう、空間づくりを工夫している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出支援を行い、あまり外に出ようとする方にも声掛けし、戸外に出掛けられるよう支援している。	△	△	○	計画を立てて、海を見に出かけたり、ミカン狩りに行ったりしている。 桜の花を見に行く際には、利用者に桜のきれいな場所を聞いてから出かけた。 日常的には、玄関前の広場で過ごしたり、畑の世話をしたりできるように支援している。 さらに、家族、地域アンケートの結果をもとに取り組みを工夫してほしい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティアの方等の協力は得ていない。				○ ○ ○
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	◎	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう、施設周辺の環境整備、過ごしやすい環境作りに取り組んでいる。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望は把握し、家族とは協力しながら、普段行けないような場所に出掛けられるよう支援しているが、地域の人々とは協力ができていない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症や行動・心理症状について正しく理解はしている。一人ひとりの利用者の状態変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアについてはあまりできていない。				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知症の人の身体面の機能低下の特徴を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。	○			
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握し、職員間で共有している。				○ ○ ○
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	○		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるような支援は出来ていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。				○ ◎ ○ ○ ○ ○ ○
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援できている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援して出来ている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりさげなくカバーしているが出来ていない時もある。	○	◎		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	家族の協力で本人の望む店に行けるときもあるが出来ていない時のほうが多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行うことが出来ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、オムツの使用が利用者の心身に与えるダメージについては、職員は理解している。				ミーティング時や排泄状況の変化時に、利用者個々の担当職員が施設長と口頭で話し合い、支援を検討している。決まったことは家族にも説明している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の失敗を防ぐために、個々のパターンを把握し、兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツを使用する際は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人ひとりの状態や時間帯に合わせて下着やオムツを適時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みをしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	基本、要望がない場合は曜日や時間帯を職員側で決めることもあるが、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるように努めている。	◎			週に2回、午前中に支援している。午後からの散歩で汗をかいたような時に支援するケースがある。さらに、個々の入浴の希望や習慣なども採り入れて入浴を楽しむ支援に工夫してはどうか。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援することができている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を拒否する方に対しては、その原因や理由を理解し、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。				午前は頭を使う活動、午後からは体を使う活動を採用入れて安眠につなげる取り組みを行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組む事が出来ている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話のやりとりは出来ているが、出上のやり取りはあまり出来ていない。				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援は行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	気兼ねなく電話できるよう配慮出来ている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫はしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらっているが、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いは出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるようにはしているが、買い物先の理解や協力を得る働きかけはあまり出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援することが出来ている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ることが出来ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む事が出来ている。	○		○	墓参りに付き添うケースがある。必要に応じて受診の同行や夜間の緊急対応などを支援している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入出入りできるように工夫することが出来ている。	◎	◎	○	玄関前に駐車場がある。掃除が行き届いている。職員が活けた花を下駄箱の上に飾っている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用の空間は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さを感じてもらえるよう努めている。	○	◎	○	居間には、テレビと2つのテーブル、窓際に低めのソファを設置している。台所と居間が一体になっており、調理器具や台所に立つ職員の様子が見える。2階ユニットの人は、階段や昇降機を使って上がり降りしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、汚れた場合はその都度掃除している。			○	掃除は職員が行っており、行き届いている。窓からの採光で室内は明るい。テレビを点けていたり、音楽を流したりしていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫出来ている。			△	七夕の時期には笹飾りを飾っていたようだが、室内には季節感を感じるものは少ない。時計は、高い位置にかけている。カレンダーなどはなく、職員が口頭で日にちを知らせているようだ。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを居室に飾ったり置いたりして、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	◎		△	タンスや収納ボックスを持ち込み、家族が衣替えをしている。家族の写真や飾っている居室がみられたが、使い慣れたものや好みのおものは少ない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全にできるだけ自立した生活が送れるように配慮、工夫をしている。			○	居室にはそれぞれに花の名前が付いており、ひらがなで大きく明示してある。トイレなどにも表示があるが、高い位置の表示となっている。利用者は位置で自室やトイレの場所を認識しているようだ。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については家族・職員間で検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている場合もあるが、危険なものは預かるようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	代表者及び全ての職員は、居室や日中にユニットの出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。	◎	○	△	職員は、入職時に鍵を掛けることのリスクについて学んでいる。日中、玄関から外に出る際には、開錠する必要がある。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保についても説明し、話し合いをしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している。	◎	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握出来ている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインについても記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援出来ている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援出来ている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報を、医療機関に対して事細かく提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職等に伝えて相談している。訪問看護ステーション等との契約がない為、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職もしくは協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制を作っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解出来ている職員と出来ていない職員がいる				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬が本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用がないか等の確認は日常的に行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	漫然と服薬支援を行わず、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。				入居時には、看取りの指針に沿って説明を行っている。その後は、看取りの時期に入ってから話し合い、方針を共有することになっている。さらに、家族アンケートを参考にし取り組みを工夫してほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有することができている。	△		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整え、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族等への心理的支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員は、感染症や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に研修し学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃体制は整えているが、訓練は行えてない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行には随時対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築くことが出来ている。				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応が出来ている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	家族がホームでの活動に参加できるように、夏祭りや餅つきなどの季節行事等の場面には必ず機会を作っている。	△		○	夏祭りや年末の餅つき、外食の行事時には案内文を出したり、電話で案内したりしているようだ。
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。〔「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等〕	◎	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告を行い、利用者の暮らしぶりや日常の様子を「たより」の発行等で具体的に伝えている。	○		○	夏祭り時に併せて家族会を行い、家族同士で交流する機会をつくっている。 手書きの「ちかみシーサイドしんぶん」を毎月発行して、行事やおやつ作り、誕生会の様子などを報告している。 しんぶんの下段に、担当職員からメッセージを書いている。 SNSで、写真を付け報告するようなケースがある。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	これまでの本人と家族との関係性については理解するよう努め、より良い関係を築いていけるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議の開催や電話連絡等で、事業所の運営上の事柄や出来事について報告し、理解や協力を得るようにはしている。	△		△	玄関に、運営推進会議議事録ファイルを立てている。数名の家族は、内容を確認しているようだ。3月に食事代の値上げを行った際には、家族に説明文書を送付した。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族同士の交流が図られるように、機会を提供しているが、機会については少ない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて(転倒のリスク等)家族等に説明し、本人の暮らしを大切にできる話し合いを行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うようにしている。			○	玄関横にある事務所に施設長がおり、家族来訪時には声をかけて「気になっていることはありませんか」と尋ねている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居について、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるような体制づくりや支援を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図る事が出来ている。		○		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から日常的なあいさつ、地域行事への参加等の関係を深める働きかけが出来ている。		×	△	事業所で行う夏祭りの際には、地域の人にも参加を呼びかけた。当日は、婦人会の人たちが来て盆踊りを踊ってくれた。 秋祭りには、子ども神輿が入っている。 事業所では今後、社会資源とのつながりを大切にしたいと考えている。
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	近所のコンビニの職員さんたちも気軽に声をかけてくださり、利用者を見守ってくれている。この数年で支援してくれる地域の人たちが増えている。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしてくれている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうと、日常のおつきあいをさせてもらっている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っているが不十分。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加があり、参加できない方には、連絡し報告している。	×		△	利用者は参加していない。 家族は、一名の決まった人に案内し、参加してもらっている。 地域からは、毎回、民生委員が参加している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告している。			△	会議は、30分程度で行っており、要介護別利用者状況報告、活動状況、職員に関する活動状況、医療、研修、地域交流について報告している。 サービス評価は、数年間実施しておらず、取り組みの報告は行ってない。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。		◎	○	参加者から「地域行事への参加を増やしてはどうか」という意見を受け、公民館へ行事内容を聞きに行き、その結果を民生委員に報告した。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。			◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	運営推進会議の議事録はファイルを作り閲覧出来るようにしている。				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えており、事業所内にも掲示している。		△	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	管理者は、教育・訓練・学習については研修を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させるよう取り組んでいる。				法人主催の食事会や、忘年会、新年会で親睦を図る機会がある。 職員は順番に別部屋で休憩時間を取っている。 休みの希望を出せたり、育児休暇をとったりしやすい環境がある。 施設長は、職員の様子が気になる時には、帰りに声をかけて話を聞くようにしている。
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	定期的な面談を行い、管理者や職員のストレスを軽減し、環境づくりに取り組んでいる。		◎	○	○
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	年に一度高齢者虐待防止法についての研修を行い、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場を定期的につくっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について理解出来ている。				○ 行為を発見した場合は、その場で注意し、施設長に報告すること、職員は認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に確認している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解する事が出来ている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて確認し、年に2回身体拘束についての研修を行い、身体拘束適正化委員会は3か月に1回開催している。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族等から拘束や施設長の要望があった場合、その弊害についても説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、理解を図っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	一部の職員しか日常生活自立支援事業や成年後見制度については理解していない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、情報提供し、相談等の支援を行っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	地域包括支援センターや専門機関との連携体制は築けている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成し、職員全体周知している。					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急手当や初期対応の研修は定期的に行っているが、訓練をはきていない。					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故が発生した場合の事故報告書や事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組む事が出来ている。					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、対応方法についても検討している。					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。必要な場合には、市にも相談・報告等している。					
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答し、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者が意見や要望、苦情を伝えられるよう、日々の業務の中で機会をつけている。			△	運営推進会議には参加していない。運営について訊く機会は少ない。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族等が来訪時、意見や要望、苦情を伝えられる機会を作り、運営推進会議の時に聞いたり、意見箱を設置している。	○		△	運営推進会議に参加する家族は機会がある。その他の家族は機会が少ない。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	◎	自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。			○	施設長や管理者がミーティング時や個別に聴いている。時に施設長は、なぜ利用者本位の支援が必要であるかを職員に話している。	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年1回全員で自己評価に取り組んでいる。					
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにし、意識統一や学習の機会として活かしている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	○	×		サービス評価は、数年間実施しておらず、取り組みの報告は行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を年2回以上行っている。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制は確保出来ている。	×	×	△		6月の防災訓練の様子は、後日、地元消防団の人に報告したようだ。12月の訓練は、民生委員が参加しているようだ。運営推進会議時に、防災について口頭で話し合っている。さらに、アンケート結果をもとに取り組みを工夫してほしい。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うことが出来ておらず、地域の災害対策は不十分。					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信し、近隣の小学校等で認知症サポーター養成講座を行っている。				施設長が小・中学校や公民館で認知症や介護の話をする際には、事業所は相談支援を行えることを説明している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の人たちが集う場所として事業所を解放はしているが、なかなか活用されていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学校の職場体験等、地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。			○	